

戦災遺跡 旧日立航空機株式会社変電所



《軍需工場の変電所》

昭和13年、北多摩郡大和村（現在の東大和市）に戦闘機のエンジンを製作する大きな軍需工場が建設されました。後の日立航空機株式会社立川工場です。そして敷地北西部に存在した変電所は、高圧電線で送られてきた電気を、減圧して工場内へと送る重要な施設でした。

《アメリカ軍による攻撃》

昭和20年、多摩地域周辺の他の軍需工場と同じく、大和村の軍需工場でも2月と4月に計3回の大きな攻撃を受け、工場の従業員や動員された学生、周辺の住民など110名以上の方が亡くなりました。なかでも4月24日の攻撃では、B29約100機により1800発余りの爆弾が投下され、工場は完全に破壊されました。



爆撃で破壊された工場

《生き残った変電所》

3回の空襲により建物のほとんどが破壊された工場のなかで、変電所の建物は奇跡的に爆弾の直撃を受けずに生き残りました。もちろん窓枠や扉などは爆風で吹き飛び、壁面には爆弾の破片により無数のクレーター状の穴ができました。しかし鉄筋コンクリート製の建物本体は、致命的な損傷を受けなかったのです。

《戦後も現役で活躍》

昭和20年8月長かった戦争が終わると、工場は

スレートや編み物機の製造など平和産業に転換して生き残りを図りました。以後、自動車会社との合併や社名変更などを行いながら、平成13年まで操業を続けました。

その間、この変電所は主要設備機器の更新をしながら、実に平成5年まで工場へ電気を送り続けました。しかも外壁に刻まれた生々しい爆撃の傷跡は、何ら補修されることもなく、そのままの状態です。



外壁に残る生々しい弾痕

《戦争を伝える文化財として》

平成5年、都立公園の整備のため、変電所を含む工場の敷地の一部を東京都が買い上げることになり、変電施設としての役割は終わりました。しかし地域住民の強い要望により、変電所の建物はそのままの場所で保存されることになりました。

そして、戦争での空襲により多くの尊い命が犠牲になったことを、誰よりも雄弁に物語ってくれるこの変電所を、東大和市文化財に指定し、後世に伝えることにしました。

無数の弾痕がある外壁は、当時の攻撃のすさまじさを教えてくれます。戦争の怖さや悲惨さ、そして平和の尊さやすばらしさを、この変電所を通して感じていただければと思います。

【交通】西武拝島線・多摩モノレール「玉川上水」駅より徒歩約5分、都立東大和南公園内

【問い合わせ先】東大和市立郷土博物館

電話 042-567-4800 ファクシミリ 042-567-4166